情報科学芸術大学院大学附属図書館

IAMAS 図書館便り

vol. 17
2020.12

IAMAS［イアマス］とは、情報科学芸術大学院大学の英語表記の頭文字を取った略称です。

in dust-real からはじまり NxPC.Lab へ

特集 コミュニケーションシステム 平林 真実
→自作を語る／思い出の一冊／学生に薦める一冊

●図書館を活用する ●お知らせ

特集　コミュニケーションシステム

平林（ひらばやし） 真実（まさみ）

この特集では、 IAMASの教員に、自著・思い出の一冊・お薦めの本などを紹介してもらいます。第17回は、平林真実教授です。

→自作を語る

「Toy Box on the NET」、『Internetworking』、アスキー、1996年6月-1997年9月

アスキー／1996年-1997年

あいにく書籍はないので、IAMASに来たばかりの頃にしていた連載を代わりに紹介する。『Internetworking』という雑誌は、インターネットが一般に急速に普及し始めた黎明期に出ていた月刊誌である。『UNIX Magazine』と同じ系列のため技術系の記事の中にいくつかエンタメ系？の連載があり、その一つを担当していた。

丁度、趣味でやっていたクラブイベントのネット中継が、IAMASに来てからは研究活動としてできるようになり、ネット中継のための機材を購入しネット中継チームとして東京のいろんなクラブから中継をしていた時期である。CU-SeeMe、StreamWorks、RealAudio/Videoなどの中継システムの運用方法をAUTOMATIX、Liquid Roomといった会場からの事例を交えて紹介したり、IAMAS主催の展覧会The INTERACTION'97の紹介、オンラインコミュニティに潜入インタビューしたりといった内容を書いていた。最後の記事はPHSでモバイル中継できるようになったという内容だった。雑誌はあまり売れなかったのか休刊と共に連載も終わったが、結局、趣味の活動ではなくなったものの本来の研究のサブとして遊んでいた活動が、その後の音楽イベント系の活動に繋がり、NxPC.Labを始めたことでメインの研究になってしまったという経緯の初期の記録として残ることになったのである。

→思い出の一冊

J.G.バラード『クラッシュ』、ペヨトル工房、1992年

ペヨトル工房／1992年

研究系の本は既に紹介されているので、今回は強烈な共感を覚えた本として本作を取り上げたい。2021年1月に、デビッド・クローネンバーグが監督した映画版（オリジナルは1996年）の4K無修正版が公開されることや、次に挙げる『ノヴァセン』を読んでいるうちに当時の感覚を思い出したのも理由である。

交通事故をきっかけとして、事故あるいは自己損傷とセックスに異常なフェティシズムを覚えるようになり、衝突死に執着する男との出会いにより、最後は車ごとダイブすることですべてを達成しようとする話である。性的描写の多すぎるのは読むのに疲れるが、一つの理想的な死に方に思えた。機械によって得られる快楽と表裏一体の関係にある死に意識することの相乗効果に同感できたのを覚えている。死を意識しな

がら加速Ｇと速度に身を任せる快感と限界を探りつつ制御する感覚は、テクノロジーによって増幅された常習性のある快楽である。テクノロジーと人類の愉しい関係を『ノヴァセン』の時代へ向けて考えるためのSci-Fi prototypingな視点から読み直すと面白いのではないだろうか。

→学生に薦める一冊

ジェームズ・ラヴロック『ノヴァセン：〈超知能〉が地球を更新する』、NHK出版、2020年

NHK出版／2020年

ラヴロックといえばガイア理論が有名である。地球の生態系を一種の生命体として捉えたガイア理論は、（ある種積極的な）誤解とともに多くの人に知られ、勝手に利用された考え方であった。私も金と権力まみれの自然保護団体と自然や環境を叫ぶ人たちの人類のことしか考えていない利己的な態度に嫌気がさして、地球のために人類滅びればいいのにと考えていた類であった。

そんなガイア理論のラヴロックが100才を超えてアントロポセンの時代を超えた超知能と人類によってガイアを維持しようという話が『ノヴァセン』である。近年、『サピエンス全史』や進化心理学の進展で人類がろくでもない種であることがわかってきたが、カーツワイルのシンギュラリティやハラリの『ホモ・デウス』でもみられるようなテクノロジーによる人類の更新といった話題を踏まえた上で、アントロポセンを超えていくために必要とされる進化が『ノヴァセン』で語られている。ガイア理論もそうだが地球全体と生態系として考えることで全体を見渡そうしている。アントロポセンこのままじゃヤバイよね、という状況に対するラヴロックなりの提示であると思う。ただし、ガイア理論の時のような誤解を生まないためにハラリやカーツワイル等のあとに読む必要があるだろう。

図書館を活用する　その10　図書館と書店

図書館を活用するには、その限界を知っておく必要がある。図書館の本棚に並んでいる本は、出版された本のなかから利用者の、大学図書館であれば学生や教員の利用を想定して選書されている。だからといって、利用者のすべてのニーズを満たすことはできない。物理的スペースの問題、予算の問題などで、図書館があらゆる本を揃えることは不可能だからだ。図書館の本棚に並んでいる本がすべてではない。

また、図書館で借りた本は必ず返却しなければならない。レポートや論文が完成しないからといっていつまでも借りたままでは、他の利用者の迷惑になる。もちろん、線を引いたり、ページの角を折ったり、コーヒーをこぼしてもいけない。図書館で本を借りることは、何かと制約がある。

図書館の本棚にはない本、いつも手元に置いておきたい本を手に入れるなら、（オンライン書店の常連であっても、たまには）書店に足を運ぼう。書店に一歩足を踏み入れれば、書店ごとの空気がある。所狭しと並べられている本、なかには書店員おすすめの本もPOP付きで並んでいる。図書館よりも広い本の世界が広がっている。自分の関心がある分野とは違った書棚に踏み込めば、新しい発見もあるかもしれない。

書店で購入した本は自分自身の本である。図書館の本のように、返却期限日までに返さなければならないものではない。読みながら気になるところに線を引いたり、ページの角を折ったり、書き込みしたり。何をしても誰からも文句は言われない。なによりも、返す必要がないし、必要な時に誰かが借りているということもない。購入した本はいつでも参照できる安心感を与えてくれる。

本を扱う空間である図書館と書店。それぞれの特長を知って必要に応じて使い分けてみることが、図書館を活用することにつながるのだ。

お知らせ

→カウンターに除菌BOXを設置しました

新型コロナウイルス感染症対策として、本や雑誌の表面を紫外線で除菌できる除菌BOXを図書館のカウンターに設置しました。ぜひご利用ください。

【使い方】

①BOX内に本や雑誌を置く。
②扉を閉め、スタートボタンを押す。
③青い光が消えたら、BOXから本や雑誌を取り出す。

■開館時間　月－木　10:15－19:00　／　金　11:15－20:00

■休館日　　土曜日・日曜日・祝日、年末年始、臨時休館日（蔵書点検など）

■貸出

学生　　20冊・3週間以内
卒業生　5冊（図書のみ）・2週間以内
学外者　2冊（図書のみ）・2週間以内

※新型コロナウイルス感染症対策のため、一部のサービスを変更しています。
・開館時間：月－金 12:00－19:00
・学外の方（卒業生を含む）の利用禁止
・マスクの着用、図書館入口での手指消毒の実施

情報科学芸術大学院大学［IAMAS］附属図書館 編集・発行
〒503-0807 岐阜県大垣市今宿6丁目52番地18 ワークショップ24 1F
TEL・FAX: 0584-75-6803　URL: https://www.iamas.ac.jp/lib/